【投手の投球制限】
少年部・学童部の投手の投球制限については、1日7イニングまでとする。ただし、特別延長戦の直前のイニングを投げ切った投手に限り、1日最大9イニングまで投げることができる。

・同一投手は、1日7イニングまで投げることができる。
・特別延長戦に限り、1日2試合で2イニングまで投げることができる。従って、1日7イニングと特別延長戦の2イニングは別の取り扱いとなる。
・特別延長戦に投げることのできる投手は、特別延長戦に入る直前に投げていた投手か、新たに登板する投手とする。
＊＊＊(「新たに登板する投手」とは、その試合だけで無く、その日全く登板していない投手の意味である。第1試合に登板した(当別延長回だけの登板は除く)は投手は全て「新たな投手」に当たらない。
・投球イニングに端数が生じたときの取扱いについては、1／3未満の場合であっても、1イニング投球したものとして数える。

【特別延長戦になった場合に投球することのできる投手の条件】
・7回終了時(特別延長戦に入る直前のイニングの意)に投球していた投手(7イニングを投げた投手も可能)
・直前のイニング終了時において他の守備位置に付いていた野手のうち一度も投球をしていない選手
＊＊＊「一度も投球していない選手」とは、第1試合も含め投球していない投手の意味。但し、第1試合の当別延長回だけを投げた投手は除く。
・直前のイニング終了時において試合に出場していない選手

【投球制限の許容範囲内の投球イニング】(投球可能なケース)

例示1

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
第1試合	A	A	A	A	A	A	A	A	A

7イニングと特別延長2イニングを継続して投げているのでok

例示2

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
第1試合	A	A	A	A					
第2試合					A	A	A	A	A

第1試合に4回、第2試合の5回から3回、しかも延長戦の直前回を投げ切っているので延長2回もok

例示3

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
第1試合					A	A	A	A	
第2試合				A	A	A	A	A	

両試合とも延長の直前回を投げ切り、計7回と特別継続2回でok。2試合目が9回に入った場合は交代。

例示4

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
第1試合	A	A	A	A	A	A	A	B	B
第2試合	B	B	B	B	B	B	B	C	C

第1試合の特別延長戦で新たなB投手が登板し、第2試合も7回は登板できる。

＊上記の場合、特別延長戦を投げたB投手は、第2試合目に7イニングを投げることが出来るが、特別延長戦には投げられない。

＊上記の場合、第1試合を投げたA投手は、第2試合目の特別延長戦のみに再登板することは出来ない。A投手が第1試合で7イニング投げずに5イニングだった場合でもNG

例示5

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
第1試合	A	A	B	B	B	C	C		
第2試合	A	A	A	B	B	B	B	B	B

Bは第1試合と第2試合で計7回登板したが、第2試合の延長直前の回を投げ切り、しかも第1試合の延長戦での登板が無いのでOK

【投球制限の許容範囲外の投球イニング】（投球不可能なケース）

例示1

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
第1試合	A	A	B	B	B	A	A	B	

NG

特別延長直前のイニングで投球しておらず、又、一度投球しているのでBは3回しか投げていないが特別延長戦での登板はNG。Aの続投か新たな投手

例示2

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
第1試合	A	A	A	A	A	A	A		
第2試合	B	B	B	B	B	B	B	A	

NG

Aは第1試合で7回投げたが、第2試合の延長戦では登板出来ない。これは延長直前のイニングを投げ切れていないことから。Bの続投はok

例示3

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
第1試合	A	A	B	B	B	C	C		
第2試合	A	A	B	B	B	C	C	B	

NG

Bは1・2試合で6回しか投げていないが、第2試合の延長直前回を投げ切っておらず、又、新たな投手でもないのでNG

例示4

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
第1試合	A	A	A	A	B	（5回ｺｰﾙﾄﾞ）			
第2試合	A	A	A	C	C	D	D	B	

NG

Bは第1試合で1回しか投げていない。第2試合では投げていなので「新たな」投手に該当すると思ったが、1試合目で投げているからNG